

## 会 議 記 録 （ 概 要 ）

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	高松市総合都市交通計画推進協議会 平成27年度第1回交通機能部会及び交通結節部会 合同部会
開催日時	平成27年8月4日（火）15時30分～16時40分
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議題	(1) 部会長・副部会長の選任について (2) 地域公共交通再編実施計画（バス路線の再編）の策定に向けて (3) ことடன்新駅（太田～仏生山駅間）基本構想の策定に向けて (4) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	<p>【交通機能部会】</p> <p>川上委員、前谷委員、野口委員、芦田委員、古川委員、滝川委員、清川委員、秋山委員、川村委員（代理：漆原）、多田委員、今田委員、宮本委員、岡本委員</p> <p>【交通結節部会】</p> <p>西牧委員（代理：長戸）、川上委員、野口委員、芦田委員、清川委員、秋山委員、藤本委員、多田委員、今田委員、岡本委員、高木委員 （オブザーバー2名：宮武課長、渡田課長（代理：三好） （欠席委員2名：本多委員、奥廣委員）</p>
傍聴者	報道1人
担当課および連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果
<p>次のとおり、部会を開催した。</p> <p>（事務局）</p> <p>本日は、いずれの部会も部会員のうち過半数以上の方が出席しているので、高松市総合都市交通計画推進協議会条例第7条第4項において準用する第6条第2項の規定により、会議は成立する。</p> <p>1 議事の協議について</p> <p>（1）部会長および副部会長の選任について</p> <p>高松市総合都市交通計画推進協議会条例第7条第3項の規定により、部会長・副部会長を互選した。</p>

交通機能部会

部 会 長 古川委員

副部会長 多田委員

交通結節部会

部 会 長 高木委員

副部会長 秋山委員

(2) 地域公共交通再編実施計画（バス路線の再編）の策定に向けて  
事務局より説明

以後審議

(委 員)

沿線の利用者に対する調査について、ことでん琴平線の西側に設定されているが、東側については調査をやらないということか。

(事務局)

次に説明する新駅の基本構想の業務とエリア分けをしており、東側についてはその業務の中で調査対象としている。

(副部会長)

新駅の整備に合わせてバス路線を再編していくとのことであるが、概ねどのくらいのスパンで進めていくのか。

(事務局)

再編実施計画については概ね5年計画が一区切りとなっているため、新駅の動向を見極めながら、再編実施が可能な系統ということで検討している。

(委 員)

再編検討結果の図面について、1つの路線ごとにどういうふうになるのかがわかるように示してほしい。アンケートの内容について、複数回答か単一回答かを表示した方がいいのではないか。再編後の利用意向について、もう少しわかりやすい書き方がないか検討してほしい。

審議終了

(3) ことでん新駅（太田～仏生山駅間）基本構想の策定に向けて  
事務局より説明

以後審議

(委員)

理想的には、ケース3の新駅に統合する案が良いと思うが、現在の太田駅利用者が困ると思うので、これらのケース以外に、現在の太田駅を50m程度南に移設させ、南側の市営住宅の辺りにターミナルを整備し、そこから、南の新しい県道までのアクセス道路を整備するといった考え方はできないか。この場合、道路の整備延長は300m程度と距離が短く、新駅を整備する費用に対し、あまり変わらないと思う。

(事務局)

今後の交通結節拠点の整備のあり方としては、既存ストックを活用して実施すべきと考えている。御提案の場所は生活道路に囲まれているところであり、道路を拡幅していくには、あまりにも整備延長が長くなり、事業費が膨らむことが想定される。

既存ストックを最大限に活用するという考え方に則り、整備中の県道の直下に駅を置くという案の方が、効率的かつ経済的であること、また、道路を整備するには、距離が300mだったとしても、用地費、建物移転補償費等に相当の費用がかかることを踏まえ、費用対効果、整備に係る時間等の理由から、現在提案している3案について、補完調査を実施することと判断した。

(委員)

新駅と既存駅の間は何mか。

(事務局)

三条～太田駅間の新駅については、三条駅、太田駅からの距離がともに約1.2kmであり、三条駅と太田駅のちょうど真ん中に新駅を整備することになる。太田～仏生山駅間の新駅については、太田駅からが約500m、仏生山駅からが約900mである。

(委員)

基本的に駅間はどれぐらいであればいいのか。

(事務局)

利用実態については、県で実施したPT調査から新駅を利用する場合と利用しない場合の移動の流れを分析し、その結果として今の新駅の位置となっているが、駅勢圏については人口の張り付き、アクセス道路等の影響により異なるため、一概に何mであると良いという話は難しい。ただし、今回のこの位置関係のどのパターンでも、B/C(費用対効果)は確保されている。

(委員)

太田～仏生山駅間の新駅への結節も視野に、川島線のバス路線再編も考えているが、アンケート配布が太田駅周辺の1km圏域となっており、川島線の再編まで網羅できるのか。

(事務局)

調査エリアが重複しないように配布することとしており、両方のアンケートで補完し合うことで網羅できると考えている。

(委員)

アンケートの対象を南北の1kmにする場合、対象の抽出によって答えが変わってくると思う。アンケート回答者がどの位置に住んでいるのかを結果に反映する必要があるのではないか。

(事務局)

個人情報の問題があるので難しいが、どの辺りの人が回答したかがわかるようにコード処理等を施すことも視野に検討したい。

(委員)

アンケートの票中の位置図について、できれば駅名やバス停名を書いてほしい。

審議終了

(4) その他

事務局より7月27日に開催した市民啓発部会の内容について説明  
(公共交通利用促進啓発用資料映像、バス案内標識)

閉会

以上